

参考文献

- Anne-Marie Nybo Andersen, Jan Wohlfahrt, Peter Christens, Jorn Olsen, et al. (2000). Maternal age and fetal loss : population based register linkage study. *BMJ*, 320, 1708-1712.
- 荒木勤 (2009). 最新産科学 異常編. 文光堂.
- Babill Stray-Pedersen, Sverre Stray-Pedersen (1984). Etiologic factors and subsequent reproductive performance in 195 couples with a prior history of habitual abortion. *American Journal of Obstetrics and Gynecology*, 148(2), 140-146.
- Carl Tupper, R.J. Well (1962). The Problem of Spontaneous abortion. *American Journal of Obstetrics and Gynecology*, 83, 421-424.
- Drakeley AJ, Quenby S, Farquharson RG (1998). Mid-trimester loss-appraisal of a screening protocol. *Human Reproduction*, 13(7), 1975-1980.
- 遠藤俊子編 (2009). 助産師基礎テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア. 日本看護協会出版会.
- Eric Jauniaux, Roy G. Farquharson, Ole B. Christiansen, Niek Exalto (2006). Evidence-based guidelines for the investigation and medical treatment of recurrent miscarriage. *Human Reproduction*, 21(9), 2216-2222.
- Gary T. Jeng, Jaes R. Scott, Leon F. Burmeister (1995). A Comparison of Meta-analytic Results Using Literature vs Individual Patient Data. *JAMA*, 274(10), 830-936.
- 江見弥生, 秦久美子, 大谷友夏他 (2009). 不育症当事者の思い—ピアサポートグループへの入会時アンケートより—. *母性衛生*, 50(3), 257.
- 江見弥生, 中塚幹也 (2010). 不育症女性の背景と顕在性不安と抑うつ傾向の関連. *母性衛生*, 51(3), 137.
- 花原恭子, 岡山久代, 玉里八重子 (2007). 死産を体験し、次子出産した褥婦の死産に対する思い. *母性衛生*, 48(3), 179.
- Fuiku-Labo 不育症治療に関する再評価と新たな治療法の開発に関する研究 厚生労働省研究班. <http://fuiku.jp/index.html> [2012-1-13]
- 藤森敬也, 園田みゆき, 佐藤章 (2007). 高齢妊娠の産科リスク. *臨床婦人科産科*, 61(1), 14-19.
- 藤田富雄 (2003). 習慣流死産を捉える 医療としてどう捉えるのか—母性内科の立場か

- ら～. ペリネイタルケア, 22(3), 197-201.
- ・萩野真代, 島名梨沙, 兵藤美穂他(2010). 不育症のへパリン治療を受けて生児を得られた女性の妊娠経過、治療に対する思い. 群馬母性衛生, 58, 13-14.
 - ・平山史朗, 高橋克彦(2001). 不育症の心理ケア.産婦人科治療, 82, 567-572.
 - ・蛭田明子(2006). 子どもを亡くした後で その次の妊娠. 助産雑誌, 60(11), 967-969.
 - ・Howard JA Carp(2007). Recurrent Pregnancy Loss Causes, Controversies and Treatment.informa.
 - ・H.S.Liddell,N.S.Pattision,A.Zanderigo(1991).Recurrent Miscarriage-Outcome After Supportive Care in Early Pregnancy.The Australian and new Zealand journal of Obstetrice and Gynecology,31(4),320-322.
 - ・兵藤美穂, 伊藤道子, 貞形衣恵(2006). 死産後の次の妊娠における心理的ケアに関する検討. 母性衛生, 46(4), 117.
 - ・池ノ上克, 鈴木秋悦, 高山雅臣他編(2006). NEW エッセンシャル 産科学・婦人科学. 医歯薬出版.
 - ・井上統夫, 石丸忠之, 増崎英明(2007). 不育症治療後流産例のその後の妊娠転帰. 産婦人科の実際, 56(12), 2019-2022.
 - ・苛原稔編(2009). インフォームド・コンセントのための図説シリーズ 不妊症・不育症. 医薬ジャーナル社.
 - ・石井慶子(2006). 医療者の心無い言葉・嬉しかった言葉 活動から見えてきたもの. 助産雑誌, 60(11), 942-945.
 - ・石原理, 柴原浩章, 三上幹男他編(2010). 講義録 産科婦人科学. メジカルビュー社.
 - ・石川源, 吉田有里, 西弥生他(2005). 不育症治療とその周産期予後. 周産期医学, 35(10), 1361-1366.
 - ・伊藤明子, 牛嶋順子, 園田みゆき他(2010). 高齢妊娠の産科リスク. 産科と婦人科, 2(7), 125-129.
 - ・Jon Cohen(2005). 流産の医学 仕組み、治療法、最善のケア. 谷垣暁美訳 (2007). みすず書房.
 - ・Judith Schott,Alix Henley,Nancy Kohner(2007).Pregnancy loss and the death of a baby.Stillbirth and neonatal death society(SANDS).2007.
 - ・Kathleen R,Stevens,Virginia R.CassidyEd. (1999). エビデンスに基づく看護学教育.

- 杉森みど里監訳. (2003). 医学書院.
- ・ 交野好子, 杉下知子(1994). 自然流産後の悲嘆過程. 母性衛生, 35(1), 90-96.
 - ・ K.Clifford,R.Ral,L.Regan(1997).Future pregnancy outcome in unexplained recurrent first trimester miscarriage.Human Reproduction,12(2),387-389.
 - ・ Kelly A.Timbers,Ronaid F.Feinberg(1997).Recurrent pregnancy Loss:A Review.Nurse practitioner Forum,8(2),77-88.
 - ・ 木地谷祐子(2010). 死産で子どもを亡くしたあと、次の妊娠・出産に至った母親の体験. 日本助産学会誌, 23(3), 485.
 - ・ 古賀文敏, 中島章, 岩下弘子他(2005). 不育症と抗リン脂質抗体症候群. 産婦人科治療, 91(2), 154-158.
 - ・ 近藤浩子, 鷹見有紀子(2010). 大切な涙—大切な人を亡くしたあなたに、お伝えしたいこと—. 表現文化社.
 - ・ 厚生労働省研究班(2010). 厚労研究班の研究成果を基にした不育症管理に関する提言. 平成 20～22 年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）総合研究報告書, 11-18.
 - ・ 倉戸ツギオ, 鈴木直人, 三根浩(1995). 学ぶ、教える、かかわる—自己教育力をはぐくむ教育行動の心理学—. 北大路書房.
 - ・ 牧野恒久(2001). 不育症の新しいトレンド（総論）. 産婦人科治療, 82(5), 514-517.
 - ・ 松林秀彦(2008). 抗リン脂質抗体陽性の不育症の治療は？. 臨床婦人科産科, 62(4), 445-449.
 - ・ 松岡千代(2010). EBP(evidence-based practice)の概念とその実行(implementation)に向けた方略. 看護研究, 43(3), 178-191.
 - ・ 松下美恵, 加藤高枝, 池田玉味他(1994). 自然流産を経験した女性の心理過程の分析—自然流産後における悲嘆の反応について—. 母性衛生, 35(2), 187-192.
 - ・ 松山弘美(2010). 赤ちゃんのハートビートが活動の原動力. 地域保健, 41(6), 44-49.
 - ・ Maureen T M Franssen,Johanna C Korevaar,Fulco van der Veen,etal(2006).Reproductive outcome after chromosome analysis in couples with two or more miscarriages:case-control atudy.BMJ,332,759-763.
 - ・ 文部科学省 日本ユネスコ国内委員会. <http://www.mext.go.jp/unesco/009/004/028.pdf> [2012-1-13]

- ・村瀬聡美, 我部山キヨ子編(2008). 助産学講座 4 基礎助産学[4]母子の心理・社会学. 医学書院.
- ・長澤泉(2006). 死産・流産におけるグリーフケアの実態調査. 母性衛生, 47(3), 2006.
- ・中村恵子, 中塚幹也(2010). 不育症妊婦に対するヘパリン自己注射指導における岡大式教育資料の有用性. 母性衛生, 51(3), 138.
- ・中塚幹也(2010). 不育症女性に対する精神的支援に関する研究. 平成 20～22 年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）総合研究報告書, 159-167.
- ・中塚幹也, 平松祐司(2005). 不妊症と患者支援. 岡山医学会雑誌, 117, 135-139.
- ・難波沙由里, 矢富茜, 久下さくら他(2009). 不育症のヘパリン治療 医療スタッフによる注射と自己注射との負担の比較. 母性衛生, 50(3), 126.
- ・日本産科婦人科学会編(2008). 産科婦人科用語集・用語解説集. 金原出版.
- ・日本産科婦人科学会, 日本産婦人科医会編(2011). 産婦人科診療ガイドライン. 日本産科婦人科学会.
- ・日本生殖医学会編(2010). 生殖医療ガイドブック 2010. 金原出版.
- ・西弥生, 竹下俊行(2005). 習慣流産と抗リン脂質抗体. 産婦人科の実際, 54(4), 561-566.
- ・乳幼児突然死症候群(SIDS)家族の会(1998). ちいさな赤ちゃん あなたを忘れない. 乳幼児突然死症候群(SIDS)家族の会.
- ・乳幼児突然死症候群(SIDS)家族の会(2000). 職種別/SIDS に対応するためのガイドライン. 乳幼児突然死症候群(SIDS)家族の会.
- ・岡井崇, 綾部琢哉編(2011). 標準産科婦人科学. 医学書院.
- ・大西弘高(2005). 新医学教育学入門—教育者中心から学習者中心へ. 医学書院.
- ・太田尚子(2006). 死産で子どもを亡くした母親たちの視点から見たケア・ニーズ. 日本助産学会誌, 20(1), 16-25.
- ・太田尚子(2009). ペリネイタル・ロスのケアに関する看護者教育プログラムの効果：ランダム化比較試験. 2008 年度聖路加看護大学大学院看護学研究科博士論文.
- ・大内茂男, 中野照海編(1982). 教授メディアの選択と活用. 図書文化社.
- ・Osama.M.H.Habayeb, Justin C.Konje(2004). The one-stop recurrent miscarriage clinic: an evaluation of its effectiveness and outcome. Human Reproduction, 19(12), 2952-2958.

- ・小澤伸晃(2003). 週刊流死産を捉える 医療としてどう捉えるのか～産科の現状と今後の問題点～. ペリネイタルケア, 22(3), 192-196.
- ・小澤伸晃(2008). 不育症と死産. 産科と婦人科, 75(4), 426-433.
- ・小澤伸晃, 三井真理, 花岡正智他(2010). 高齢妊娠と流産リスク. 産婦人科の実際, 59(2), 167-172.
- ・ Philip R.Wyatt, Titus Owolabi, Chris Meiter et al.(2005). Age-specific risk of fetal loss observed in a second trimester serum screening population. American Journal of Obstetrics and Gynecology, 192, 240-246.
- ・ Gagne Robert Mills, Briggs Leslie J(1986). カリキュラムと授業の構成. 持留英世, 持留初野共訳(2001). 北大路書房.
- ・ Robert Fox, Mary Pillai(1997). The management of late fetal death: a guide to comprehensive care. British journal of obstetric and Gynecology, 104, 4-10.
- ・ 流産・死産・新生児死で子をなくした親の会(2002). 誕生死. 三省堂.
- ・ 流産・死産体験者で作るポゴスママの会編(2007). とともに生きる たとえ産声をあげなくとも. 中央法規.
- ・ 流産・死産体験者で作るポゴスママの会(2011). 大切なお子様を亡くされたご家族へ. 流産・死産体験者で作るポゴスママの会.
- ・ S.A.Brigham, C.Conlon, R.G.Farquharson(1999). A longitudinal study of pregnancy outcome following idiopathic recurrent miscarriage. Human Reproduction, 14(11), 2868-2871.
- ・ 佐藤珠美, 竹ノ上ケイ子, 熊谷三津子他 (1999). 流産後の心理変化(1)—流産直後の心理特徴—. 日本助産学会誌, 12(3), 140-143.
- ・ 佐藤珠美, 竹ノ上ケイ子, 熊谷三津子他(2000). 自然流産後の心理特徴(3)—妊娠への思い, 性生活への思い—. 日本助産学会誌, 13(3), 70-71.
- ・ 聖路加看護大学 看護実践開発研究センター 天使保護者ルカの会(2008). 悲しみのそばで —死産・新生児死亡で赤ちゃんを亡くしたご家族へ—. アメジスト大衛.
- ・ Sharon Glass Jonquil(1997). Recurrent Spontaneous Abortion. Midwifery Today Education, 41, 32-33.
- ・ 柴原浩章(2009). 前回の流産で胎児が育っていないといわれました。次の妊娠は大丈夫ですか?. 周産期医学, 39 増刊号, 28-29.

- ・柴原浩章編(2009). エビデンスを目指す不妊・不育外来実践ハンドブック. 中外医学社.
- ・SIDS 家族の会編(1994). もう一度抱きしめたい：赤ちゃんの死を乗り越えるために.
メディカ出版.
- ・S.Jivraj,B.Anstie,Y-C.Cheong,et al.(2001).Obstetric and neonatal outcome in women
with a history of recurrent miscarriage:a cohort study. *Human
Reproduction*,16(1),102-106.
- ・秦久美子, 久世恵美子, 中塚幹也(2010). 不育症女性の妊娠による不安と束縛感. 母性
衛生, 51(3), 137.
- ・Woloshin,Steven,Schwartz,Lisa M,Welch,H.Gilbert(2008). 病気の「数字」のウソを見
抜く. 澤京子(2011). 日経 BP 社.
- ・Stillbirth and neonatal death society(SANDS) (1991). 周産期の死・流産・死産・新生
児死亡・死別された両親へのケア. 竹内徹訳(1993). メディカ出版.
- ・杉俊隆(2007). EBM に基づく不育症診療の実際 基礎から臨床へ. 金原出版.
- ・杉俊隆(2010). 不育症学級. 金原出版.
- ・杉俊隆(2011a). 抗リン脂質抗体症候群と静脈血栓塞栓症. *臨床婦人科産科*, 65(2), 161-165.
- ・杉俊隆(2011b). 抗リン脂質抗体症候群と妊娠. *産婦人科治療*, 103(2), 209-214.
- ・杉俊隆 (2011c). 抗リン脂質抗体症候群の診療. *産婦人科治療*, 増刊号, 648-652.
- ・杉浦真弓(2008). 婦人科疾患の診断・治療・管理 不育症. *日本産科婦人科学会雑誌*,
60(12), 505-509.
- ・杉浦真弓(2009). 不育症既往妊娠の予後. *産婦人科の実際*, 58(12), 1919-1924.
- ・杉浦真弓(2010a). 胎盤と疾患 抗リン脂質抗体症候群. *周産期医学*, 40(7), 1133-1136.
- ・杉浦真弓(2010b). 母体の血液異常 抗リン脂質抗体症候群. *周産期医学*, 41(8),
1041-1044.
- ・杉浦真弓, 尾崎康彦, 北折珠央(2010a). 未婚女性の妊娠に関する意識調査. 平成 20～
22 年度厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業) 総合研
究報告書, 121-126.
- ・杉浦真弓, 鈴木貞夫, 尾崎康彦他(2010b). 本邦における不育症患者の頻度調査. 平成
20～22 年度厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業) 総
合研究報告書, 99-100.
- ・杉浦真弓, 尾崎康彦, 片野衣江他(2011). 不育症の診療. *産婦人科診療*, 102.増刊号,

221-225.

- ・ 杉山ちえ, 鈴木貞夫, 水谷栄太他(2011). 不育症の頻度調査-岡崎研究. 日本産科婦人科学会雑誌, 63(2), 484.
- ・ 鈴木克明(2005). 教材設計マニュアル. 北大路書房.
- ・ 田部尚子, 中塚幹也, 秦久美子他(2006). 不育症症例における妊娠中の精神的ストレス. 母性衛生, 47(3), 196.
- ・ 高木耕一郎(2009). 抗リン脂質抗体症候群の薬物治療の開始時期, 妊娠中の管理法, 投与中止時期について具体的に教えてください. 臨床産科婦人科, 63(4), 647-649.
- ・ 竹ノ上ケイ子, 佐藤珠美, 松山俊剛(2000). 自然流産後の女性の心理(1)—流産直後, 3か月後, 6か月後—. 日本助産学会誌, 13(2), 20-34.
- ・ 竹ノ上ケイ子, 佐藤珠美, 松山俊剛(2001). 自然流産後の女性の心理(2)—夫の反応, 妊娠への思い, 性生活への思いに焦点を当てて—. 日本助産学会誌, 14(2), 5-17.
- ・ 竹ノ上ケイ子, 佐藤珠美, 辻恵子(2006). 自然流産後の夫婦が感じた関係変化とその要因—体験者の記述内容分析から—. 日本助産学会誌, 20(2), 8-21.
- ・ 竹下俊行(2004). 妊娠前のプライマリ 不育症. 周産期医学, 34(11), 1633-1638.
- ・ 竹下俊行(2010). 不育症. 周産期医学, 40 増刊号, 98-102.
- ・ 竹下俊行, 里見操緒, 金栄淳他(2004). 習慣流産に対する夫リンパ球免疫療法の現状と問題点. 産婦人科の実際, 53(3), 427-431.
- ・ 竹内正人(2004). 赤ちゃんの死を前にして: 流産・死産・新生児死亡への関わり方とこころのケア. 中央法規出版.
- ・ T.c.Li(1998).Guides for practitioners Recurrent miscarriage: principles of management. Human Reproduction,13(2),478-482.
- ・ T.c.Li,M.Tomsu,E.Tuckerman,S.Laird(2002).Recurrent miscarriage :aetiology, management and prognosis. Human Reproduction Update,8(5),463-481.
- ・ The Miscarriage association. <http://www.miscarriageassociation.org.uk/>
[2012-1-13]
- ・ Togas Tulandi,Haya M Al-Fozan(2011a).Definition and etiology of recurrent pregnancy loss.http://www.uptodate.com/contents/definition-and-etiology-of-recurrent-pregnancy-loss?source=search_result&search=%E6%B5%81%E7%94%A3&selectedTitle=

3%7E150 from Up To Date[2012-1-13]

- Togas Tulandi,Haya M Al-Fozan(2011b).Management of couples with recurrent pregnancy loss.
[http://www.uptodate.com/contents/management-of-couples-with-recurrent-pregnancy-loss?source=search_result&search=%E6%B5%81%E7%94%A3&selectedTitle=4%7E150 from Up To Date\[2012-1-13\]](http://www.uptodate.com/contents/management-of-couples-with-recurrent-pregnancy-loss?source=search_result&search=%E6%B5%81%E7%94%A3&selectedTitle=4%7E150 from Up To Date[2012-1-13])
- Togas Tulandi,Haya M Al-Fozan(2011c).Evaluation of couples with recurrent pregnancy loss.
[http://www.uptodate.com/contents/evaluation-of-couples-with-recurrent-pregnancy-loss?source=search_result&search=%E6%B5%81%E7%94%A3&selectedTitle=5%7E150 from Up To Date\[2012-1-13\]](http://www.uptodate.com/contents/evaluation-of-couples-with-recurrent-pregnancy-loss?source=search_result&search=%E6%B5%81%E7%94%A3&selectedTitle=5%7E150 from Up To Date[2012-1-13])
- Togas Tulandi,Haya M Al-Fozan(2011d).Spontaneous abortion:Risk factors,Etiology,clinical manifestations,and diagnostic evaluation.
[http://www.uptodate.com/contents/spontaneous-abortion-risk-factors-etiology-clinical-manifestations-and-diagnostic-evaluation?source=search_result&search=%E6%B5%81%E7%94%A3&selectedTitle=1%7E150 from Up To Date\[2012-1-13\]](http://www.uptodate.com/contents/spontaneous-abortion-risk-factors-etiology-clinical-manifestations-and-diagnostic-evaluation?source=search_result&search=%E6%B5%81%E7%94%A3&selectedTitle=1%7E150 from Up To Date[2012-1-13])
- 特定非営利活動法人(NPO 法人)不育症友の会(2006). カウンセリング・レポート. 特定非営利活動法人(NPO 法人)不育症友の会.
- Dick,Walter,Carey,Lou,Carey,James O. (2000). はじめてのインストラクショナルデザイン. 角行之, 多田宣子, 石井千恵子訳(2004). ピアソン・エデュケーション.
- With ゆう(2006a). 大切な赤ちゃんとお別れをしたお父さん・お母さんへ(流産・死産の方用). With ゆう.
- With ゆう(2006b). 大切な赤ちゃんとお別れをしたお父さん・お母さんへ(新生児死亡の方用). With ゆう.
- 山本樹生, 佐々木重胤, 中沢禎子(2005). 不育症の原因としての抗リン脂質抗体症候群. 周産期医学, 35(10), 1351-1355.
- 山中美智子編(2009). 赤ちゃんを亡くした女性への看護-流産・死産・早期新生児死亡における援助の実際とグリーフケア. メディカ出版.
- 矢富茜, 難波沙由里, 久下さくら他(2009). 流死産時の環境, 医療スタッフの対応とその後の不育症女性の心理. 母性衛生, 50(3), 126.

- ・ 米田昌代(2010). 流産・死産・新生児死亡・乳児死亡を体験した母親の心身の状態とかわり方. 地域保健, 41(3), 26-31.
- ・ 吉沢豊予子(2008). 周産期看護学アップデート. 中央法規.